

見て、体験して、学ぶ。空知署の森林環境教育 ～人材育成を交えて～

空知森林管理署 土屋 美月、山下 勇氣、木村 雅代

研究の背景・目的

空知署は11市町を管轄しており、森林環境教育の要望も教育機関に留まらず、就労継続支援施設など年齢・目的が多様となっています。実施に当たっては、参加者がワクワク楽しみながら森林・林業に興味を持つきっかけとなるプログラムの提供と併せ、森林環境教育を実施できる職員の人材育成も必要と考えました。今回は、管内の特徴的な森林での開催や実際に行っている業務の体験など参加者目線のプログラムと誰もが講師になることができるよう若手職員の人材育成も交えて取り組んだ活動を整理しました。

研究の内容・成果

	事例① 遊びながら学ぶ	事例② 体験型学習	事例③ 森林を感じる
対象者	小学生	高校生	保育園児及び障がい者等
総人数	45名 (1班6名)	80名 (1班8名)	40名 (1班10名)
場 所	利根別自然休養林(岩見沢市)	長沼防風林(長沼町)	南部林道(夕張市)
時 間	2時間 (冬季)	1.5時間 (秋季)	1.5時間 (秋季)
要 望	自然とふれあう活動を通して自然と人とのつながりや環境を大切にすること、郷土空知の山と水の働きとその重要性を知る。楽しみながら実施できる自然体験活動を要望。	理科の授業を活用して地域(長沼町)の自然環境を知り、その価値について理解を深め、人と自然との関わり、地域の活性化について考える。林業体験を要望。	就労継続支援施設の通所者が実行委員となり地域の行事を企画。企画の1つとして森林散策会を実施してほしい。保育園児も通所者も自然好き。森林とのふれあいを要望。
内 容	・冬芽観察、輪尺で木を測る ・松かさの宝探しゲーム	・防風林効果の説明 ・植樹体験	・フィールドビンゴ ・葉っぱでじゃんけん
工夫点	立寄ポイント毎にクイズやゲームを用意した。また、林業道具を使用した業務体験も交え、森林・林業に興味を持ち、楽しみながら学んでもらう。	防風林の効果が学べるように模型を用いて説明し、クイズを交えて森林整備への理解を促す。 当署で実施している凸型防風林整備を体験。	世代が入り混じる班をつくる。参加者のペースに合わせて歩き、フィールドビンゴを使用して森林探索。施設制作のバードコールで全員で音色を楽しむ。森林とのふれあいに重点を置く。

写 真

木の年輪の前に



植樹体験



フィールドビンゴ



まとめ・今後の展開

参加者目線のプログラムを提供した結果、活動の喜びが伝わってくる感想が多く寄せられました。また今回の全事例において、不慣れな若手職員がリーダーとして森林環境教育が行えるように、クイズ形式を取り入れ、ベテラン職員がサポートすることで森林・林業の基礎知識の取得やコミュニケーション能力の向上に繋げることができました。一方、課題として自然に関心が薄い高校生に対する指導など難しい側面も見えてきました。今後も参加者の感想に耳を傾けつつ、多様な参加者の目線に合わせ、森林・林業を身近に感じてもらえるような活動を目指していきたいと考えます。